

最後の言葉だ ありがとう

河村慎吾

〇〇先生、スポーツマンで体力もあり走るのも速かった君は、人生という道をあまりにも早く駆け抜けていきました。僕は入局年度が1年後輩になりますが、誕生日が1か月違いで同い年ということもあり親友として付き合いしてもらいました。親愛の情をこめて先生の事を君と呼ばせてもらいます。

2012年7月、君からあまりにも突然の電話が入りました。しばらく病院を休むことになったので、最後の帝王切開の手伝いに来てほしいという内容でした。診療中で傍らに患者さんが居たので、詳しいことも聞けず一先ず手術の応援に行くことだけを快諾し電話を切りました。仕事が終わって電話をかけなおしところ、食道癌が見つかったのでしばらく治療に専念するという内容でした。ちょうどサザンオールスターズの桑田佳祐さんが食道癌の治療から復帰したところでしたので、病状も知らない僕は桑田さんも復帰したのだから大丈夫よと呑気なことを言ってしまいました。君は、「桑田さんとは違うから・・・」と笑って聞き流してくれました。既にその時点で自分の病状を把握し覚悟を決めていたのだと後から気づきました。

最後の帝王切開が終わった時に、「ああ、これで最後の手術だ・・・」と淋しそうに言ってポツンと佇んでいた姿を今でも鮮明に覚えています。もっと診療も手術もしたかったし、無念であったと思います。

医局での思い出もたくさんありますが、昭和59年に君が産科婦人科学教室ソフトボール部の監督に就任した年に県大会で優勝したことも思い出の一つです。その時の様子を君が同門会誌に寄稿しています。同門会誌の中にたくさんの素晴らしい投稿がありますが、僕の中では君の「第15回県医師会ソフトボール大会優勝記ー広銀の森グラウンドへの道ー」(同門会誌第16号47頁～54頁)が最優秀賞の記事です。君は頭の回転が速くいつもウィットに富んだ話で仲間を楽しませてくれていました。この記事も同様にウィットに富んだ君らしい文章で、読み返してみると30年前のことがつい先日のように思い出されます。

安佐南区で開業した後は、「松の会」と称したゴルフコンペを開催し仲間を楽しませてくれました。春は松坂牛、秋は松茸と松尽くしの賞品を提供し、これも君らしいウィットに富んだコンペでたくさんの仲間が楽しく参加しました。

最初の退院する前に退院後何がしたいかと尋ねたところ、携帯電話を持たずにのんびりと魚釣りがしたいということでした。同じく親友の〇〇先生と共に退院したら魚釣りに行こうと言っていたのですが、約束が果たせないままになってしまいました。仕事を気にせず魚釣りをしたいというささやかな願いも叶えることができませんでした。通院中や入院中の患者さんの事を気かけながら、常に携帯電話を気にしながらのストレスの多い毎日を送っていたのだと思います。今頃は銀河の大海原で携帯電話を持たずにお酒を片手にのんびり魚釣りを楽しんでいることだろうと思います。

君は自分には薩摩男児の血が流れているので男らしく生き抜くと言っていました。最後まで愚痴もこぼさず自暴自棄にもならず、男らしく人生を全うしましたね。その姿を見て友人として誇りに思っています。

最後まで希望を捨てず、外来だけの診療のための医院改装やプランニングを考えていましたね。大好きなドライブを楽しむため 6 月には体調がよくないにもかかわらず自動車運転免許証の更新にも行きましたね。

医師として自分の病状を把握していたので、本当に辛く苦しかったと思います。にもかかわらず、見舞いに行ったときにはいつもの〇〇節で楽しい会話をしてくれました。時々、話している中で涙を浮かべることもあったので、本当に辛かったと思います。

君が言っていた通りの男らしく素晴らしい生き方（死に方）でした。

「最後の言葉だ ありがとう」・・・、これは君の出棺の時に流れたアリスの夢去りし街角という曲の詩の一部です。

奇しくも葬儀当日の 2013 年 9 月 23 日に広島でアリスのコンサートが開催されました。君もアリスの大ファンで、コンサートに行きたいと言っていました。君の無念の思いを抱きながら僕はコンサートに行ってきました。数々の青春時代の懐かしい楽曲が流れる中で突然に夢去りし街角が演奏された時には、今までの様々な君との思い出や出棺時の情景が思い起こされ嗚咽しました。

今でも心の整理がつかず、君から電話が入ってくるような気がします。

夢去りし街角の曲がいつも脳裏に流れています。

でも、そろそろ現実を受け入れないといけませんね。

僕と出会ってくれて、ありがとう。

親友になってくれて、ありがとう。

生き方を教えてくれて、ありがとう。

そして、「最後の言葉だ ありがとう」

追伸

もう一つだけ言葉を準備しておきます。

「久しぶりじゃのう！」

また会った時には、この言葉を交わしてまた親友になってくださいね。

それまで、しばしのお別れです。

合掌